

令和6年度 愛知県立時習館高等学校 学校評価結果

本年度の 重点目標	不易と流行 時習館のあるべき姿の追究と中高一貫教育の導入に向けて		
担当	重点目標	具体的方策	総合評価
総務部	(1)生徒、保護者の防災意識をより高める。 (2)災害時等における教職員の初動について、意識を高めるとともに具体化を図る。 (3)家庭と学校との間の、簡便で密な連絡方法の確立を目指す。	(1)生徒による「防災・減災だより」の作成や伝達など、生徒自身が情報を発信し防災意識の向上を図ることができるよう促す。 (2)学校安全マニュアルの活用を呼びかけるとともに、職員防災研修などの事例研修の内容を充実させる。 (3)「デンタツくん」の安定的な運用体制確立を目指すとともに、利用の方法や機会について検討する。	8月の南海トラフ地震臨時情報（巨大地震注意）の発表は、防災への取り組みに対する一層の充実と周知徹底が求められていることを意味するが、現状はまだ不十分であると考えられる。いつ何が起こるかわからないという前提のもと、教職員・生徒ともに「自分ごと」として防災体制への関わりを持てるよう、意識を高める働きかけをしていきたい。 「デンタツくん」は、さまざまな場面で利用が進められており、情報発信ツールとしての役割を十分果たしている。安定運用に留意し、今後も利用の幅を広げていけると良い
教務部	(1)中高一貫のスタートにむけて、各教科と連携しながら、本校にふさわしい教育課程を編成する。 (2)図書館の来館者を増やし、貸出冊数の増加を図る。 (3)生徒用タブレット端末利用について、授業だけでなく学校生活全般での活用を充実させる。 (4)学校ホームページは、校外向けの情報に加えて、在校生や保護者にも利用されるように工夫する。	(1)他校の実例を踏まえながら、教科会と密に連携し、教育課程の検討を行う。 (2)図書委員の活動や図書館のレイアウト変更などの工夫を行う。 (3)タブレット端末の活用方法についての研修や情報提供を実施する。 (4)在校生や保護者がホームページを利用する場面を想定し、改善を行う。	教育課程については、必修科目を中心に検討を進めることができた。次年度も継続して議論を重ね、よりよい教育課程を編成していきたい。 図書館の展示の仕方などの工夫を行ったが、来館者が少ないためうまく伝わらなかった。次年度は、まずは図書館に足を運んでもらえるようにする取り組みを考える必要がある。 生徒用タブレット端末の利用増加に伴って、破損割合も増加しているため、破損防止策を講じる必要がある。また、生徒用タブレット端末で学校ホームページなどWeb上の関連した内容を閲覧する機会を設ける必要がある。
生徒指導部	(1)品位ある身だしなみを心掛け、責任ある行動がとれる生徒を育成する。 (2)遅刻指数1%未満を目指す。 (3)交通安全や交通マナーの遵守を徹底する。 (4)学校行事・部活動・ボランティア活動などに積極的に取り組むことのできる生徒を育成する。	(1)身だしなみ指導、立ち番指導などの充実と情報モラルの実践を促すことで、生徒の意識の向上を図る。 (2)担任との連絡を密に取り、生徒の精神状態や遅刻の要因を考察する。また、毎学期で3回目・6回目・9回目の遅刻ごとに面談を行い、遅刻の多い生徒に対して支援し遅刻防止に努めていく。 (3)生徒への啓発活動を工夫し、命の大切さを理解させ、交通マナーを守らせる。 (4)行事を運営する生徒への声かけ、部連会や激励会の開催、各種ボランティア事業の広報を通して生徒が積極的に参加できる土壌を整備する。	身だしなみについては、教職員の共通理解と一致団結のもと、どの学年の生徒も概ねきちんとした身なりで、落ち着いた学校生活を送ることができた。また保護者の評価も高く、制服の着こなしに関する家庭での理解と協力が得られていると考えられる。交通マナー順守については、立番時の指導や校外での見回り指導により成果がみられた。特別活動においては、生徒会行事全般について参加意識の高さが見られた。
進路指導部	1年 自己を見つめて将来に対して高い志を持たせ、高い進路目標を築き上げさせる。 2年 高い進路目標を設定し、その希望を持続させ、意欲的に学習に取り組ませる。 3年 自分の進路希望を明確にさせ、最後まで挑戦する勇氣を持たせる。	1年 個々の特性を踏まえつつ、将来の「あるべき自分」について考えさせ、主体的に進路目標を考えさせる。 2年 進路行事（進路講演会、学部・学科説明会）や担任面接などを通して、具体的な自身の将来像を考えさせ、より明確な進路目標を設定させる。 3年 設定した進路目標の具現化のため、最後まで粘り強く志望校に挑戦し続けるよう指導する。毎日の授業が強固な学習基盤となるように、進路講演会や補講・学習会、大学別の説明会でやる気を喚起する。	全体的に進路部の発信が不足であること痛感した。進路部内で協議した内容について各学年の進路指導部員が各学年団に明確に伝え進路部と学年団が共通理解を持てるよう更なる努力が必要である。教職員、生徒、保護者に進路部の方針、取り組みがうまく伝わってなかった現状を鑑みると、まずは教職員の共通理解の重要性を再確認しなければならない。それができて初めて生徒や保護者に進路部の方針や取り組みが伝わると考える。このあたりの進路部外部への情報発信がうまくできていないことは猛省すべきである。

保健部	<p>(1) 健康と安全面に留意して学校管理下(授業・部活動・学校行事など)の事故や怪我の減少を目指す。</p> <p>(2) 各委員会活動(保健・美化・緑化)の充実を目指し、生徒の主体的な活動の促進に努める。</p> <p>(3) 感染症の予防や保健衛生、美化・緑化などの環境衛生活動の推進を図る。</p>	<p>(1) 安全点検の徹底と修繕処理の迅速な対応を目指し、予測可能な事故や怪我の予防策を周知させる。</p> <p>(2) 定期開催の各委員会を生徒主導の委員会となることを目指し、委員会の意義や役割を理解させる。</p> <p>(3) 学校に関わる全ての職員・生徒が安心・安全な日々を送られるような環境づくりを目指す。</p>	<p>目標達成に向けて生徒・職員で協力し、日々計画・実行・反省・改善を図ってきた。今年度のアンケート結果や実績から考えると、保健室利用において内科・外科ともに大幅に減少しており、良好であるが、評価としては昨年度よりも全体的に5段階平均がやや減少している。学校関係職員及び生徒・保護者にアナウンスする機会を通して、保健部の活動を具体的に知ってもらう工夫を検討すると同時に、学校管理下における職員・生徒の健康や安全、環境美化・整備、健康の保持増進を学校全体で取り組みたい。また職員・生徒の心身の充実を図り、持続可能な学校環境となるように努めていきたい。</p>
探究推進部	<p>(1) 第IV期SSH事業の目標である「総合知の獲得」を目指した教育活動のあり方を、全教科体制で検討、実践する。</p> <p>(2) SSH・あいちリーディングスクール(以下「あいちLS」とする)事業の成果普及のための広報活動を充実させる。</p>	<p>(1) 各教科の代表教員が出席する「探究推進専門委員会」と教科会との連携を図り、総合知の獲得を目指した探究型の教育活動(以下「探究型授業」とする)を検討、実践する。また効果の検証を行い、当該教科だけでなく他教科の指導にも生かせるよう、探究推進専門委員会にて情報を共有する。</p> <p>(2) SSH・あいちLS事業の実施報告を、参加生徒の声を交えつつ、本校内外に向けて紙媒体やホームページで発信する。特に、地域の小・中・高・特別支援学校への広報活動を充実させる。</p>	<p>(1) 探究型授業については、他校の事例等を「探究推進専門委員会」から各教科会を通じ、全教職員への共有を図る必要がある。「総合的な探究の時間」については、来年度は実施体制を大きく変更することで、教員のみならず生徒の認識の変容を目指す所存である。</p> <p>(2) 広報活動については、ホームページへの事業報告の掲載が一定の効果を果たしていると判断する。今後は、本校生徒に対する校内広報の在り方についても検討したい。</p>
1 年 学 年 会	<p>高い進路目標を実現するために、自考自成才できる生徒の育成。</p>	<p>指示・課題を減らし提案を増やす～自考自成才を促す～</p> <p>(1) 難関国公立大学を目指す意義を理解させ、自身が行くべき大学を考えさせる。</p> <p>(2) 無用の遅刻欠席をさせない等、基本的な生活習慣を定着させ、信頼できる大人にさせる。</p> <p>(3) 授業第一ならびに家庭学習週25時間を徹底させる。</p>	<p>進路希望調査で、東京大・京都大をはじめとする難関大志望者が昨年に比べて増加した。担任会・学年会で、継続的に生徒の情報共有を図り、個々の生徒への声かけについて、タイミングを計画的に決め、内容を共有し、組織的に進路指導・相談にあたることができました。</p> <p>以上のような取り組みを行うことで、高い進路目標を実現するために、自考自成才できる生徒の育成について、一定の成果を得られたと考えられる。</p>
2 年 学 年 会	<p>(1) 時習館高校の中核としての自覚を持ち、自考自成才できる集団を育成する。また、心身の健康を保つことができる基本的な生活習慣を維持させる。</p> <p>(2) 高い進路目標を掲げ、実現に向けて自らの課題を見つめ、自律的に学習に取り組む習慣の確立を目指す。</p>	<p>(1) 生徒たちが自覚に基づいた主体的な行動を取ることができるよう、生活習慣、挨拶、清掃、部活動や学校行事への参加について、学年団で指導方針を共有し継続的に支援する。</p> <p>(2) 授業の価値を高め、大切にさせる指導を中心に、担任面談や学年集会、教科指導を通じて高い志を持たせる。</p>	<p>学年全体の傾向として、1年次よりも高い進路目標と学習への強い意識を持っている。一度掲げた目標を下げることなく、学年末まで継続して高い志をもって学習に取り組むことができた。学校行事や生徒会活動、部活動では、学校の中核として自覚的に行動した。</p> <p>心身に不調を抱え、欠課時数が増加している生徒もみられるが、学年全体で情報を共有し、協力して支援および指導を実施することができた。3学期には、「3年生0学期」との意識をもち、学習に対して自律的に行動することができるようになった。学力面で二極化の様相を見せているため、78回生全体として意識の向上ができるよう、指導を継続していきたい。</p>
3 年 学 年 会	<p>(1) 基本的な生活習慣の維持と各自の進路目標の達成に挑む高い志を築かせる。</p> <p>(2) 最上級生としての自覚を持たせ、高校生活の集大成に向けて努力を継続させる。</p>	<p>(1) 学校生活において、基本的な生活習慣の確立を維持させ、心身の良好な健康状態を保ち、進路実現に向けた「自考自成才」を体現させる。</p> <p>(2) 学習のみならず、各種行事、SSH事業等に主体的に取り組めるように支援する。</p>	<p>生徒や保護者の学校評価のアンケート結果を見ると、前年度平均と比べると低下している項目が多い中で、教育活動全般、教員の指導やテスト週間以外での学習時間の確保について生徒の評価は上がっており、進路目標に向かうための学校の体制と生徒の取り組みがうまく機能していると考えられる。保護者は生き生きと学校生活を送ることや国際交流を含むリーディング事業の評価が高く、勉学と部活動に加え、学校生活全体の充実にもつながる良い評価と思う。</p> <p>3年間を通じて学年全体として心身の健康状態が良好であった。3年生となり、学校行事やSSH事業や探究活動などにも主体的に取り組む様子が見られ、充実した高校生活を送ることができた生徒が多かったと考える。</p>